

### 3. 地震後の RHR の操作について

3月11日の地震スクラム後、RCIC や主蒸気逃がし安全弁の排気による圧力抑制室温度の上昇を抑制するために、15時04分から15時07分間に RHR ポンプ(A)、(C) を起動し、RHR 熱交換器を介して圧力抑制室プール水の循環冷却運転を行っている。図3にこのときの RHR 系統の運転状態の概略図を示す

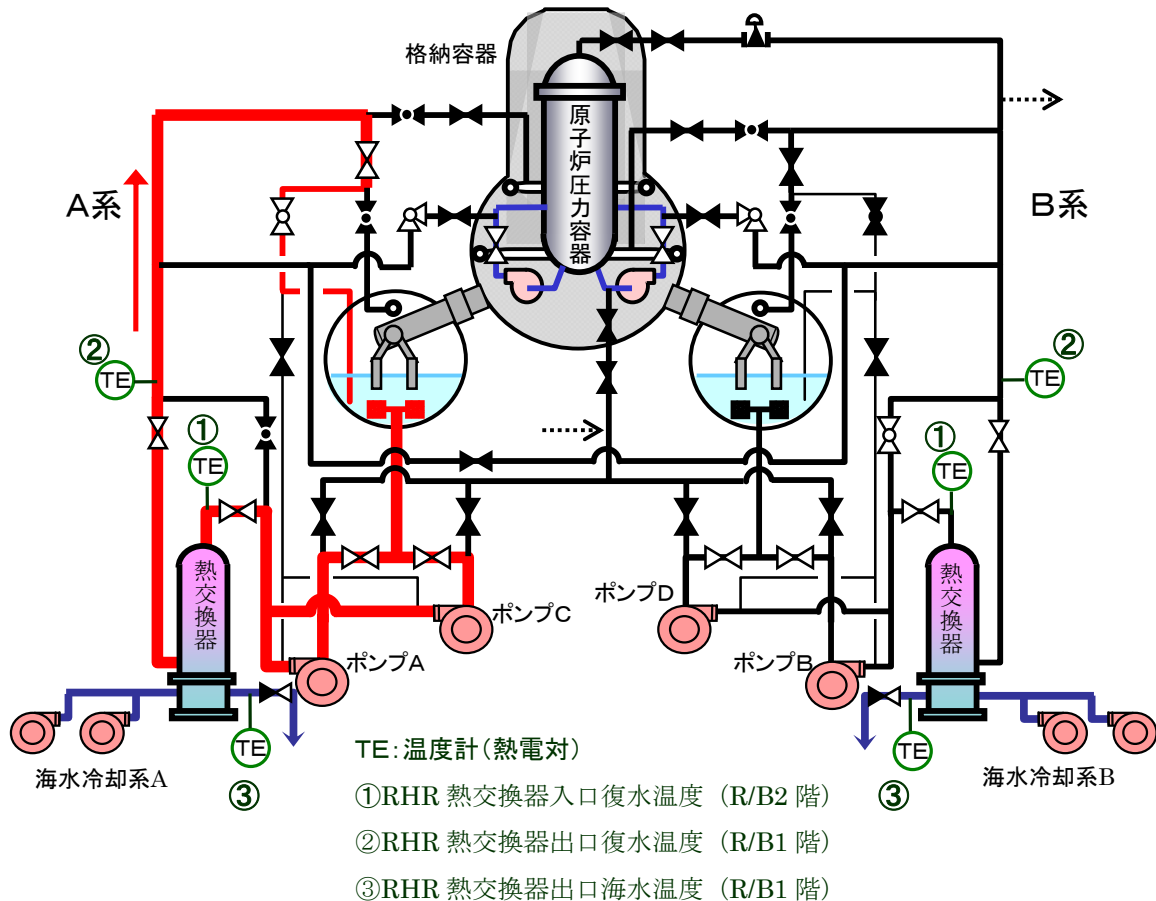


図4 RHR 系統概略図 (圧力抑制室プール冷却モード (A系運転))

プロセス計算機に記録されたデータによると、その後、残留熱除去系海水ポンプ(A)及び(C)の遮断器が15時36分58秒にoffとなっている。また、15時37分40秒に非常用ディーゼル発電機(A)の遮断器がoffに、15時37分42秒に当該のディーゼル発電機から受電していた非常用電源盤(2C)が電圧を喪失している。これに伴い、RHR ポンプ(A)及び(C)の遮断器も15時37分43秒にoffとなっている。これらは津波到達により海側から順に機能喪失していったものと考えられている。(添付資料地震津波-1 参照)

さらに、津波後に RHR 系統のライン構成を通常に戻したとの記録がある。以上より、津波到達後、系統内の水の循環による熱交換器を介した崩壊熱の熱除去は生じていないと考えられる。